アラム・ハチャトゥリアン（1903-1978）

アルメニア出身。20 世紀ロシア・ソビエト音楽の中で重要な位置を占める作曲家です。彼は民族音楽の要素を取り入れながらも、独自の作曲スタイルを確立し、バレエ音楽や交響曲、ピアノ作品で広く知られています。

生涯

幼少期と教育

- **生誕**: 1903 年 6 月 6 日、現在のグルジア（当時のロシア帝国）のトビリシでアルメニア人の家族に生まれました。音楽的な環境に育ったわけではありませんでしたが、幼少期から民族音楽に触れ、これが後の作曲に大きな影響を与えました。
- **教育**: 1921 年、18 歳でモスクワに移住し、ゲネスィンスキー音楽学校で学びました。その後、モスクワ音楽院に進学し、ニコライ・ミャスコフスキーに師事しました。彼の教育はハチャトゥリアンに大きな影響を与え、モスクワ音楽院では作曲家としての基礎を確立しました。

作曲家としての台頭

- 1930 年代から作曲家として台頭し、1936 年に初の交響曲を発表。その後の作品はソビエト連邦政府からも高い評価を受けました。彼は、ソビエト音楽界の一員としての役割も果たし、政府の文化政策に従いながらも、民族的な要素を取り入れた独自の音楽を追求しました。
- 1940 年、彼の最も有名なバレエ作品である《仮面舞踏会》が成功し、続いて《ガイーヌ》（1942 年）もヒット。特に《ガイーヌ》の中に収録された「剣の舞」は国際的にも広く知られるようになり、ハチャトゥリアンの名前を世界に広めました。

晩年

- 1960 年代以降、教育活動にも力を入れ、モスクワ音楽院で教鞭を執り、若い作曲家の育成に尽力しました。彼の生徒には、後に著名な作曲家となるソフィア・グバイドゥーリナなどがいます。
- 1978 年 5 月 1 日、74 歳でモスクワにて亡くなりました。

主要作品

バレエ音楽

ハチャトゥリアンは特にバレエ音楽で知られており、彼の作品は色彩豊かでリズミカルな音楽が特徴です。民族舞踊やリズムを取り入れた楽曲は、力強さとエネルギーに満ちています。

1. **《ガイーヌ》(1942 年)**
    - 彼の最も有名な作品であり、アルメニアの民族舞踊と音楽を取り入れています。このバレエの中の「剣の舞」は特に有名で、単独の演奏でも人気を博しています。
2. **《スパルタクス》(1954 年)**
    - 古代ローマ時代のスパルタクスを題材にしたバレエ音楽で、豪華なオーケストレーションと劇的な展開が特徴です。この作品は壮大なスケールで、ハチャトゥリアンのバレエ音楽の中でも代表作の一つです。

交響曲と管弦楽曲

- **交響曲第 1 番 (1935 年)**: 若きハチャトゥリアンの作曲家としての自信作。アルメニア音楽の影響が感じられます。
- **交響曲第 2 番 (1943 年)**: 「鐘」とも呼ばれ、第二次世界大戦中の暗い時代を反映した力強い作品です。
- **交響曲第 3 番 (1947 年)**: 壮大なオーケストレーションが特徴で、ファンファーレやパイプオルガンを取り入れた独創的な作品。

ピアノ作品

ハチャトゥリアンはピアノ曲でも多くの名作を残しています。彼のピアノ作品は技巧的でありながら、アルメニア音楽のリズムやメロディーが色濃く反映されています。

ピアノ協奏曲 変ニ長調 Op.38 (1936 年)

ハチャトゥリアンの最も有名なピアノ作品の一つであり、初期の頃に作曲された作品です。このピアノ協奏曲は、エキゾチックなアルメニア民族音楽の要素を取り入れた感情豊かな楽曲で、当時の西洋音楽界に強い印象を与えました。力強く、華やかな旋律と大胆なリズムが特徴で、技巧的なパッセージが続く第 1 楽章、抒情的で美しい旋律の第 2 楽章、そしてエネルギッシュな終楽章から成り立っています。

- **第 1 楽章**: アルメニア民謡風の旋律がメインテーマとして登場し、オーケストラとの掛け合いが非常にダイナミックです。
- **第 2 楽章**: アルメニアの「サウナ」と呼ばれる楽器(木管楽器)による幻想的な音色が特徴的な部分で、独特のリズムとメロディがピアノで再現されます。
- **第 3 楽章**: 民族的なリズムを基盤にした速いテンポのフィナーレ。技巧的なピアノソロが中心となり、オーケストラとの掛け合いが華麗に展開されます。

トッカータ (1932 年): 変ホ短調 (1932 年)

ハチャトゥリアンのピアノ曲の中で最も人気があり、演奏会でも頻繁に取り上げられる作品です。特にその技術的な要求が高く、ピアニストの技巧を発揮するための見せ場となる一曲です。力強いリズムと急速なテンポが特徴で、曲全体を通してエネルギーに満ち溢れた緊張感があります。

- トッカータは、バロック時代から続く形式で、即興的かつ技巧的な音楽性が特徴です。この作品では、ハチャトゥリアンらしい民族的な要素と、力強いリズム、複雑なパッセージが巧みに組み合わされています。
- 反復するリズムと装飾音が作品の特徴で、ピアニストに高度な技術と表現力が求められます。

《ソナタ》(1961 年)

このピアノソナタは、ハチャトゥリアン晩年の作品であり、作曲技法の成熟を示しています。3 つの楽章から構成され、彼の作品に特徴的な民族的要素と新古典主義的な手法が融合しています。

- **第 1 楽章**: 力強いリズムと緊張感のある主題が繰り返し登場し、ドラマティックな展開が繰り広げられます。
- **第 2 楽章**: 抒情的で美しいメロディが印象的で、彼の持つ感情的な豊かさが現れています。
- **第 3 楽章**: リズムが重要な役割を果たし、彼のバレエ音楽に通じるエネルギッシュな要素が感じられます。

《3 つの舞曲》Op.25 (1932 年)

ハチャトゥリアンのピアノ小品集の一つで、舞踏音楽の要素を基にした 3 つの楽曲から構成されています。これらの作品は、彼の民族的な音楽スタイルをピアノ作品に反映させており、リズムの多様性と独特のメロディーが特徴です。

- **舞曲 1**: 軽快なリズムと明るい調性が特徴で、アルメニアの伝統的な舞踏のリズムを感じさせます。
- **舞曲 2**: より抒情的で、感情的なメロディが中心となります。
- **舞曲 3**: 終曲として華麗で技巧的なパッセージが続き、ピアニストの演奏技巧を引き立てる作品です。

《アルメニア風レチタティーヴォとフーガ》(1929 年)

この作品は、彼が民族音楽に強い関心を抱いていた時期に作曲されました。アルメニアの民謡や音楽のスタイルを基にしており、民族的な要素が色濃く反映されています。レチタティーヴォの自由なリズムとフーガの対位法的な技術が見事に融合しています。

- レチタティーヴォ部分は、即興的なメロディと自由なリズムが特徴で、感情豊かな表現が求められます。

- フーガ部分は、伝統的な対位法技術に基づきながらも、ハチャトゥリアンらしいリズムの強調が加えられています。

まとめ

ハチャトゥリアンのピアノ曲は、技術的に高度でありながらも、民族音楽の要素を巧みに取り入れた、感情豊かな作品が多いです。彼のピアノ音楽は、民族的なリズムと力強い旋律が特徴であり、演奏者にとっては技巧を発揮しつつ、深い感情表現が求められます。

子供のアルバム（1947 年）: Op.39（1947 年）

アラム・ハチャトゥリアンの《子供のアルバム》Op.39 は、1947 年に作曲されたピアノの小品集で、子供たちに向けて作られた比較的短くシンプルな楽曲が含まれています。教育的な目的も持ちつつ、アルメニアの民族音楽のリズムやメロディを反映しています。全部で 10 曲から成り、各曲は子供たちにとって学びやすい技術や表現を提供しています。それでは、1 曲ずつ詳しく解説していきます。

行進曲（March）

この曲は明るく元気な行進曲で、軽快なリズムが特徴です。行進曲というタイトル通り、勇ましい雰囲気があり、子供たちにとってはテンポやリズム感を養うための良い練習曲となります。簡潔なメロディラインとリズミカルな伴奏部分が、演奏者の指使いやバランス感覚を養う役割を果たします。

ワルツ（Waltz）

ワルツの優雅な 3 拍子リズムが特徴で、繊細なタッチと表現力が求められる楽曲です。子供たちがワルツ特有のリズムを身につけるために適しており、左右の

手のバランスやフレーズ感を養うための練習曲です。メロディはシンプルで親しみやすく、優雅さの中に少し哀愁が漂っています。

エチュード（Etude）

この曲は技巧的な要素を含んでおり、特に指の独立性や速いパッセージの練習に最適です。エチュード（練習曲）という名前が示す通り、演奏技術を磨くための目的で作られており、速いスケールや装飾音などが取り入れられています。演奏者にとっては、流れるような演奏技術と音のコントロールが求められます。

歌（Song）

この曲は、抒情的で美しいメロディが特徴です。歌というタイトル通り、歌うようなフレーズが続き、感情豊かな演奏が求められます。シンプルながらも表現力を養うための練習曲であり、右手でメロディを優雅に演奏し、左手で穏やかな伴奏を提供するバランスが重要です。

アルバニアの歌（Albanian Song）

- この曲は、異国的なアルバニア風の旋律を特徴としています。ハチャトゥリアンの民族音楽に対する興味が色濃く表れており、リズムやメロディがアルメニアの伝統音楽に似たエキゾチックな響きを持っています。子供たちは、この曲を通じて異文化の音楽のリズム感やメロディ感を学ぶことができます。

行進（March）

もう一つの行進曲であり、最初の行進曲とは異なるスタイルを持っています。こちらの行進曲は、より軽快で遊び心のあるリズムが特徴で、子供たちがリズム感を養うための練習曲として適しています。繰り返し出てくるリズムパターンが曲の骨格を形成しています。

トッカティーナ（Toccatina）

トッカティーナは、技巧的な速いパッセージが特徴の短い曲です。トッカー　タ形式の要素を取り入れ、急速なアルペジオやスケールが多く登場し、子供たちが指の独立性や敏捷性を養うために最適な練習曲です。エネルギッシュでダイナミックな雰囲気があり、テンポの維持と指さばきのコントロールが要求されます。

レント（Lento）

この曲はゆったりとしたテンポの抒情的な曲です。穏やかで内省的な雰　囲気が特徴的です。

メロディ: メインのメロディはシンプルでありながらも美しく、アルメニアの民族音楽の影響を感じさせる旋律です。右手で優雅に奏でられるメロディが、まるで静かに語りかけるような印象を与えます。

リズム: ゆったりとしたリズムが続き、子供たちにテンポの維持や音の長　さを理解させるために適した練習曲です。バランス良く静かな演奏を求められるため、音楽の表現力が問われます。

伴奏: 左手ではシンプルな伴奏が用いられ、右手のメロディを支えます。伴奏部分も安定したリズムを維持しながら、全体の落ち着いた雰囲気を作り出します。

ダイナミクス: ダイナミクス（音の強弱）は、抑制されたｐやppが多く使　われており、音量のコントロールが演奏の鍵となります。曲の抒情的な性格を最大限に引き出すために、繊細なタッチが必要です。

室内楽

- ヴァイオリン協奏曲（1940 年）

ソ連のヴァイオリニスト、ダヴィッド・オイストラフのために作曲され、世界的な名作となっています。抒情的でありながらも、技巧的な要素が際立つ作品です。

- **チェロ協奏曲（1946 年）**

  抒情的で深い感情表現が特徴で、チェリストたちに人気の作品です。

人間関係と影響

ハチャトゥリアンはソビエト音楽界の一員として活躍しており、ドミートリイ・ショスタコーヴィチやセルゲイ・プロコフィエフといった同時代の作曲家とも親交がありました。彼はソビエト政府からも評価され、社会主義リアリズムの作曲家として名を馳せましたが、同時にアルメニアの民族的アイデンティティを音楽で表現することにも熱心でした。

彼の音楽には、アルメニアの民族音楽や舞踊の要素が多く取り入れられており、その独特なリズムとメロディーが、彼の音楽を国際的にも特異なものにしています。

思想と音楽スタイル

ハチャトゥリアンは、自分の音楽を「人々にわかりやすいもの」にしようと努めました。彼の音楽は、民族的な素材を用いながらも、大衆的な要素を大切にし、感情に訴える力強いメロディーとリズムを重視しました。ソビエト時代の作曲家でありながら、彼の作品は個性的であり、彼の音楽に込められた民族のアイデンティティと大衆への親しみやすさが、彼の音楽を特徴づけています。

まとめ

アラム・ハチャトゥリアンは、ソビエト時代の音楽家として政府に認められながらも、アルメニアの民族音楽と西洋クラシック音楽を見事に融合させた作曲家です。バレエ音楽や管弦楽曲、ピアノ作品において、独自の民族的要素を取り入れ、世界的な名声を得ました。